

# シングルス 64年ぶり男女優勝

## 女子複 安藤・枝松ペア連覇

### 全日本大学総合卓球選手権(個人の部)

全日本大学総合卓球選手権(個人の部)が10月25日から28日まで、兵庫県尼崎市のベイコム総合体育館で行われ、男子はシングルスで及川瑞基(商3・青森山田高)が初優勝。女子はシングルスで安藤みなみ(商4・慶誠高)が、ダブルスで安藤・枝松ペア(人間科学2・山陽女子高)ペアがともに大会連覇を達成した。専大がシングルの男女を制するのは64年ぶり。



初の学生王者に輝いた及川＝撮影・石崎愛奈(法4)



圧倒的な強さをみせた安藤＝撮影・石崎

## 安藤2冠 2年連続

女子シングルスで安藤が連覇。ダブルスも安藤・枝松ペアが連覇を達成し、安藤は2年連続2冠の偉業を成し遂げた。シングルスは安藤が実力を遺憾なく発揮し、決勝まで順当に勝ち進んだ。決勝は一進一退の攻防が続くフルゲームまでもつれ込む展開となったが、最後は打ち合いを制して優勝を飾った。安藤は「絶対に連覇するという気持ちで練習に取り組んできたので、結果につながってよかった」と笑みをこぼした。ダブルス決勝の相手は春季リーグ戦で黒星を喫した早大の徳永美子・阿部愛莉ペア。立ち上がりは攻め込まれた前回の反省を生かし、安藤・枝松ペアは第1セットを先取すると、そのまま流れを渡すことなくストレート勝ち。枝松は「序盤を制したことが勝利につながった」と語った。(村山健人・商1) 写真も



連覇を果たした安藤(右)・枝松ペア 写真も

## 及川は初

男子単

及川が1位、田添響(商4・希望が丘高)が2位、三部航平(商3・青森山田高)が3位と男子シングルスは専大勢が上位を占めた。

## 男子 全日本3位

全日本卓球選手権大会(団体の部)は10月12〜14日、茨城県日立市・池の川さくらアリーナ

予選リーグは初戦を落としたものの、インターハイ準優勝の鶴岡東高校にはストレートで勝利し、グループ2位で決勝トーナメントに進出。全日本実業団選手権優勝のシチズン時計との1回戦では三部航平、田添響、郡山北斗主将(経営)

4・関西高)が3連勝で準決勝進出を決め、会場を驚かせた。迎えた準決勝ではリコーと対戦。1番手の郡山と2番手の田添が敗れ追い込まれるも、続く三部がストレート勝ちで巻き返し、4番手の田添が勝利し2-2の同点に追い

つ。最終ゲームを任されたのは郡山。2セットを連取し決勝進出に王手をかけるが、そこから3セット連続で奪われまさかの逆転負け。決勝進出を逃した。それでも優勝したリコーを相手にフルゲームの激闘を繰り広げるなど、大学生代表としての力を発揮した。(高橋玲央・法3)

## 野口 巧みなステップ駆使



日本代表のメンバーと笑顔で写真に納まる野口(前列右から4人目)

アジアラグビーセブンズシリーズ2018第3戦スリランカ大会は10月13〜14

一日、スリランカ・コロンボ  
ラグビー部の野口宜裕

野口はフルA第2戦の韓国戦でトライを決めるなど、持ち前の高い身体能力と巧みなステップを駆使し、チームの優勝に貢献した。

野口の次なる目標は、11月末から始まるHSB Cワールドラグビーセブンズシリーズへの出場だ。世界の舞台での活躍を目指す彼の活躍から目が離せない。(高田康平・経営2)

## アジア制覇に貢献 日本代表

### 青山 5試合で6得点

水球アジアジュニア選手権は10月24〜29日、ウズベキスタン

一・タシケント  
青山直輝(経営1・秀明英光)

日本代表に入るために日々練習してきた。高校時代に切磋琢磨してきた仲間と共にプレーできたことは非常にうれしかった。初めて国際大会に出場した喜びを語った青山。

5試合で6ゴールを挙げ、優勝に大きく貢献した。なかでも「特に力が入った。」



青山直輝(経営1・秀明英光)

「日本代表は体が大きく、力強かった。自分も体が小さいので、国際大会でも戦える武器を作らなければいけない」と外国人選手との差を感じつつも、「彼らの力強さを常にイメージしながらプレーしていきたい」と世界の舞台で活躍するため、さらなる成長を誓った。(高田)

# 専大スポーツ

No. 390

大会結果 予選は体育会ホームページ(専大ホームページ「スポーツ」からアクセス)でご確認ください。専大スポーツ編集部 web(http://sensup.com/)にも大会結果を配信しています。

## 国際大会 出場選手

山口遼(経営1・帯広農工) 三部航平 I.T.T.F.ワールドツアー・オーストラリアオープン(11月6〜11日、オーストラリア)  
安藤みなみ・及川瑞基

日、ベラルーシ) <フェンシング部 菊池小巻(商4・翔陽高) ワールドカップ・アルジェリア大会(11月23〜25日、アルジェリア)